

隊友会東播支部 歴史ウォーク 兵庫県小野市 国宝「浄土寺」



隊友会東播支部(支部長:石田真一)は、11月7日(日)10時から山口理事役の計画で、兵庫県小野市にある国宝「浄土寺」の見学を支部長他16名で実施しました。

秋晴れの晴天の下、ボランティアガイドの内藤様の説明を受けながら、約800年前の鎌倉時代初めに建立された浄土堂(国宝)は、桁行3間(約18メートル)、梁間3間、単層、屋根宝形造、本瓦葺の堂々とした建物で、奈良の東大寺南大門と並ぶ大仏様(天竺様)建築を代表する建物を見学しました。堂内の国宝「阿弥陀如来」は、高さ5.3m(須弥壇を含めると7.5m)もあり天井に届くほどの高さに感動を覚えるとともに、優しく見下ろしてくれるお顔は、安心感を抱かせてくれました。

この寺院の特徴としては、東向きのお堂で屋根が直線的で外観は低いように感じられますが、堂内は天井を張らない化粧屋根となっており、堂内の中央部に名仏師(快慶作)の巨大な三尊立像が立っております。背面の戸は格子戸で、夏場は16~17時頃、冬場は15時~16時頃に西日が堂内に光が反射して巨大な「三尊立像」が、雲に乗って浮かび上がっているように見えることから、西方浄土から迎えに来る「御来迎」の姿を実際に見せようとしています。その最高の時期が彼岸の頃であると伺いました。

また、敷地内には鐘楼、浄土寺の鎮守社である八幡神社、薬師堂、開山堂があり、裏の山手には、約20分から30分かけて回ることができる四国88か所巡り(お地藏様)を楽しむことができます。

寺院散策等に興味がおありの方は、是非足を運んで見られてはいかがでしょうか。

